

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300210	事業の開始年月日	平成24年8月1日	
		指定年月日	平成25年8月1日	
法人名	株式会社保健科学研究所			
事業所名	グループホーム 高津くぬぎ園			
所在地	(〒213-0005) 神奈川県川崎市高津区北見方1-2-19			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

こくぬぎ園は梨畑やぶどう畑など自然に囲まれた喉かな環境にあります。認知症高齢者の生活の快適さを向上させ、人間として尊厳のある生活を維持していく支援を行っています。周辺症状を抗精神薬などでコントロールされた状態ではなく、むしろ少々落ち着くがなく騒がしくても利用者同士、職員、ご家族と会話し時に逸脱行動があったとしても表情豊かで元気な状態を一日でも長く維持して欲しいと考えております。認知症高齢者の周辺症状の対処法として重要視されている非薬物療法への取り組みに力を入れています。回想法や音楽療法、運動療法などの非薬物的療法を取り入れることで認知症の症状を遅らせ、将来的に薬に頼らない認知症介護を目指しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年1月28日	評価機関 評価決定日	平成26年3月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

#### 【事業所の優れている点】

◇利用者がいつまでも元気で快適な生活が送れるように、次の施策を採り入れて支援している。  
 ・外部講師による音楽療法：懐かしい歌を唄ったり簡単な楽器を使ってリズムを覚えるなど、併設の小規模事業所と合同で、希望者が参加して音楽に親しむ機会を作っている。  
 ・回想法の実施：毎朝10時から15分間、全員が参加して“今日は何の日”“何月何日”などの他、「カード回想法(手作り)」を参考にしながら昔の遊びなどを思い出す切っ掛け作りをしている。  
 ・音楽でのリハビリテーション：童謡「春の小川」などに振付けを入れ、全員が音楽に合わせて身体を動かすことで身心共に軽くなり、リハビリの効果を挙げている。

#### 【事業所が工夫している点】

◇「気付きちゃったシート」の採用と活用  
 職員は利用者についての気付き、ポジティブでもネガティブでも何でも気付いたことをメモして投稿し、管理者が内容を確認し職員間で周知・共有して、ケアプランに結び付けている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム高津くぬぎ園
ユニット名	かりん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ利用者の人格を尊重しその人らしさを失うことなく、尊厳を大事にするよう職員に伝え理念を共有している。	・「人格を尊重して、自立生活を維持する」との理念を事務所と3階のフロアに掲示し職員に周知して、実践に活かしている。新入職員にはオリエンテーションで説明し、申し送りや会議で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に入会し、町内行事や地域活動に参加（防災訓練、餅つき大会等）する事で地域の一員としての役割作りを行っている。	・町内会に加入し、利用者も餅つき大会や地域防災訓練に参加して、地域の人々と交流している。 ・利用者は、ボランティアによる傾聴やハーモニカ演奏、子供会の太鼓演奏などを楽しみにしている。	・近隣の方々と合同で芋煮会を企画されてます。利用者や家族が地域の人々と交流し、事業所の理解を得る良い機会でもあり、開催が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターにて『グループホームとは？』『認知症とは？』についてお話しさせて頂き認知症の理解を深めて頂くきっかけ作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて参加者の方々と意見交換やサービスについての評価など通じ、これからの事業所運営に役立てている。また、家族の出席率が徐々に増えている。	・運営推進会議は、町内会長、民生委員2、地域包括支援センター職員、家族が参加して2か月毎に、年6回開催している。 ・活動状況報告の後、地域情報の交換をはじめ防災訓練、食中毒や熱中症対策等で意見を交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告、近況報告等運営推進会議にて報告している。生活保護者の受け入れを行っている為、区役所保護課の職員と密な連絡、連携をとっている。	・要介護更新の申請代行や運営推進会議の議事録の持参時に、区の担当者に近況を報告し連携している。 ・生活保護者の関係では、保護課職員と打ち合わせ相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入口は、H25年11月末より施錠している。内部マニュアルに沿った職員研修を行っている。普段の何気ない言動が拘束にあたる事があると、職員に認識させている。	・運営規程等に、身体拘束等利用者の行動を制限しないと明記し実践している。職員には法人マニュアルに基づき年1回研修を実施している。 ・日中は玄関は開放しているが、ユニット入口は安全のため家族の了承を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修にて勉強会の機会を設けている。日常の利用者に対する声かけや言葉使い等にも注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、まだ勉強会が行っていない。これから、もっと取り組んでいくべき所である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には十分時間をかけている。書面の内容について、たとえや説明を付け加えながら納得されるまで行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席の際、意見や要望を伺ったり面会の際に個別にお話をする機会を設けている。また、家族便りにて日頃のご様子を報告している。	・家族の意見や要望は、運営推進会議や来訪時に聴いている。 ・身体を動かす機会をとの要望を受け、現在一部の利用者にはモップがけをお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、ユニット会議、連絡ノートを活用し話し合いの機会を設け反映させている。何でも言い合える職場の人間関係を大切にしている。	・職員は、申し送りや毎月のユニット会議、連絡ノート、気づきシートで意見や提案をしている。 ・管理者は、状況に応じて個人面談を行い、又、現場で何でも話し合える雰囲気になるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ役割を任せている。職員の良い面を引き出し、輝き出せる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部、外部研修を行うことで質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の同業施設を相互訪問し意見交換や情報交換を行い、知識・技術の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面談時には、先方に出向き管理者・リーダー・家族・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・Dr等を交え、しっかり話を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ十分に納得して頂けるよう話をしている。入居時に家族から要望書を頂き職員で共有している。また、本人・家族から意向を伺いながらケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、その方のできる事、できない事を見極め次のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れず、共に暮らす同志として敬いの心を持ち、家族の様な付き合いができるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の役割として本人と家族の橋渡しになるように努めている。また家族便りの中でご様子などを報告したり、個別に電話にて情報を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問しやすい事業所の雰囲気作りを行うと共に、職員に来客時の接遇についても指導している。また地域の理髪店より定期的に理美容の訪問を依頼し地域に根付いた密着型の関わり作りをおこなっている。	・訪ねて来る友人、知人には、お茶でもてなし居室で談笑してもらい、又、正月の帰宅を支援している。 ・職員は、電話の取次ぎや海外居住の息子宛にエアーメールの発信を手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族の様な関係作り、他者を心配したり、労わったりできる人間関係が保てるように支援している。孤立しがちな利用者には職員が会話の橋渡しを行い交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子をご連絡頂けるように退居手続き時をお願いしている。家族から定期的に報告頂き、退居後の利用者への職員の訪問、面会は継続されています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務に就く前の利用者の顔のみて挨拶し、その時の利用者の状態の把握に努めている。スキンシップを多く取り入れ、手を握ったり肩をなでたりする事で心を開く、心の声を聞くきっかけ作りに役立っています。	・利用者の思いや意向は、日常生活の中で聴き取るようにし、把握した情報は「気づいちゃったシート」に記入して職員間で共有している。 ・把握が困難な方には、二者択一で聞いたり、表情や仕草で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にヒヤリング実施し情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にお一人おひとりに挨拶しその日の顔色、声を観察しその日の状態を把握して過ごし方を考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意向を伺い、モニタリングやユニット会議にて職員が意見交換し介護計画を作成している。サービス担当者会議には、往診医や歯科医の出席をお願いする時もある。	・日々のモニタリング結果と居室担当を中心にユニット会議で意見交換し、医療情報や家族の意見を入れて介護計画を作成している。 ・介護計画は3か月毎に、急変時はその都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。 『気づいちゃったシート』の活用やサービス内容の実施について、介護記録に「㊟～」と記載する事でケアの実施を示す工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。 『気づいちゃったシート』の活用やサービス内容の実施について、介護記録に「㊟～」と記載する事でケアの実施を示す工夫を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア「よりみちクラブ」との繋がりを大切に行事にボランティアとしてお招きしている。また、傾聴ボランティアや養護学校の実習生受け入れ等、事業所、利用者、地域との協働に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、本人、家族の要望を聞きながら対応。かかりつけ医を変えられない家族については、主治医と往診医の連絡を密に行い情報を共有できる支援を行っている。	・家族の対応で、かかりつけ医の受診を支援しているが、月2回の協力医の往診は全員が受けている。 ・歯科往診が月2回、訪問看護は週1回健康管理に来ている。 ・他の診療科は家族対応で、報告を受けて受診記録で共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、事業所と看護師が情報共有できる往診録を作成している。事業所側の要望と看護側の対応処置を細かく記載し、やり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報や介護サマリーをやり取りしている。入院中は、病院のソーシャルワーカーやDrと情報交換や退院後の相談、支援方法について連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族と相談し特養申請を希望される方については手続きのお手伝いを行っている。事業所として、経口摂取出来なくなると入居の継続は難しくなる旨を家族に説明し納得して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時医療行為が必要になったり、食事を経口摂取できなくなった場合は入居の継続が困難になる旨、入居時に説明して合意を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化した場合の対応については、入居時に説明されている内容を、文書化することが望まれます。</li> <li>・今後の終末期ケアに備えて、職員研修の実施が期待されます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて勉強会を行っている。実践力は、全ての職員にあるとは言えず、今後の課題となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を地域の方々をお招きし実施している。今後は、消防や地域との協力体制をもっと密にする事で構築を深めて行きたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を年2回実施しているが、消防署の立会いがなく、地域住民の協力を得た夜間想定訓練も今後の課題である。</li> <li>・非常用の食料、水、用品類の備蓄しているが十分でなく改善の余地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練の内、1回は消防署の指導を得、夜間を想定した訓練の実施が期待されます。</li> <li>・防災訓練への近隣住民の参加と、3日分の非常用品の備蓄が望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
uchi					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとり、その方に合った言葉使いや声かけを行うように努めている。節度ある関係を心掛け、配慮ある言葉掛けを職員間で共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇マニュアルを職員に配付して、入職時と年1回レベルアップ研修を行っている。</li> <li>・管理者は、日常業務のOJTで指導して、利用者一人ひとりを尊重し、性格や心身状況に応じた言葉かけや対応を行っている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすい環境作りや雰囲気作りに努めている。10時のお茶は好きなものを選択する事で自己決定の支援として設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間はお好きなことをして過ごして頂く。「したい時」「したい事」を声かけしながら本人の思いを傾聴・支援し、利用者のペースで生活できるよう手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えについては本人の希望を聞きながら職員と一緒にそろえるお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回は、利用者の嗜好に合わせ召し上がりたい物を自由昼食として提供している。又、利用者の得意料理を他利用者と共に作ったり、その季節にあった食事の提供にも心を配っている。SPの嚥下テストを行い、その方にあった食事形態で提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のペースや嚥下状況に応じて職員が介助し、会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。週に3日、昼食は利用者の食べたいメニューとし、誕生会には誕生月の方の希望を入れた食事を提供している。</li> <li>・調理の下準備や食器拭きを行う利用者もいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を測定している。Drと話し合い病状や状態に応じてその方に合った食事摂取、食事制限や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて声かけ、介助を行っている。義歯は、夕食後洗浄剤にて清潔に使用できるよう支援している。一週間に一回は歯科衛生士により口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを知り定期的に声かけを行っている。病院から入居者様についてリハパンから布パンツへ移行できた事例がある。	・排泄の自立を目標に、排泄表を活用し、又利用者の様子や表情から声掛けしてトイレに誘導している。 ・夜間は、利用者に応じて転倒等の危険リスク回避のため、家族と相談してポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、食事の献立の中に食物繊維が豊富な食材を使用したり家族と相談し個別に乳酸飲料を飲んで頂いたり、おやつに寒天を使ったものを提供。水分強化の声かけを行っている。又慢性の便秘がちの方についてはDrと相談し薬の処方をお願いしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調を優先的に考えながらローテーションで実施している。	・入浴は利用者の体調を見ながら週2回行っている。入浴したがない利用者には、時間をずらしたり丁寧な声掛けをしている。 ・しょうぶ湯、ゆず湯などで季節感を楽しみ、介助者とゆっくり話す機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けている、30分～1時間程。その後の活動性が高まり活気よく過ごすことができ、夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わり周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の予定や行事をホワイトボードに記入して見て頂くことで楽しみが増える。ケアプランの中にも役割をサービス内容に入れることで、全職員が同じ支援ができるような工夫も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクの計画。本年度、お花見、等々力公園、アクアライン、外食等。ご家族様と協力、連絡をとりながら一時帰宅や外食などの支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調に配慮しながら、近隣の散歩、買い物などに車椅子の方も一緒に出掛けている。</li> <li>・利用者、家族の希望を入れて「年間行事計画」を作り、生田緑地や等々力公園などの他、車で外食にも出かけている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしていないが、外出の際、個々にお財布を持ちそのお金で買い物を自由にできる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話の取り次ぎを行ったり遠方（海外）の親族や仲の良い友人、家族への手紙のやり取りの支援を行っている。はがきの準備や投函なども支援の一つと考え実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の手作りカレンダーの中に季節感も感じて頂くように工夫している。温湿度計に注意し、心地良い快適な空間作り心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングの壁面には、季節や行事にちなんだ飾りや写真、利用者手作りの絵馬などを貼っている。</li> <li>・家具や壁、床は落ち着いた色調で採光も十分あり、利用者はゆったりとソファでテレビを見たりおしゃべりを楽しみながら過ごしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者、同じ趣味のある方がご自分の思い思いのまま、自由な時間を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンをご自分の好きな色や物に取り替えられている方やTVやソファ・机等を置設しご自宅の一部のように使用されている。馴染みの家具やベッドを使用し持ち込んで頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にはエアコン・クローゼットが設置され、利用者は使い慣れたベッド、机、椅子、茶ダンス等を持ち込んでいる。</li> <li>・置物や写真、装飾などは好みに応じて配置し、テレビも自由に楽しんでいる。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとにトイレ、プレートを付け混乱の無い様に生活している。居室についてはその方に合ったプレートの位置を考え工夫している。トイレ内に看板を設置し、排便の有無を職員に自発的に知らせて頂けるように支援している。		

事業所名	グループホーム高津くぬぎ園
ユニット名	あんず

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえ利用者の人格を尊重しその人らしさを失うことなく、尊厳を大事にするよう職員に伝え理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として町内会に入会し、町内行事や地域活動に参加（防災訓練、餅つき大会等）する事で地域の一員としての役割を作りを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターにて『グループホームとは？』『認知症とは？』についてお話しさせて頂き認知症の理解を深めて頂くきっかけ作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見がサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて参加者の方々と意見交換やサービスについての評価など通じ、これからの施設運営に役立てている。また、家族の出席率が徐々に増えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告、近況報告等運営推進会議にて報告している。生活保護者の受け入れを行っている為、区役所保護課の職員と密な連絡、連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入口は、H25年11月末より施錠している。内部マニュアルに沿った職員研修を行っている。普段の何気ない言動が拘束にあたる事があると、職員に認識させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修にて勉強会の機会を設けている。日常の利用者に対する声かけや言葉使い等にも注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、まだ勉強会は行っていない。これから、もっと取り組んでいくべき所である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には十分時間をかけている。書面の内容について、たとえや説明を付け加えながら納得されるまで行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出席の際、意見や要望を伺ったり面会の際に個別にお話をする機会を設けている。また、家族便りにて日頃の様子を報告している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の申し送り、ユニット会議、連絡ノートや「気付いちちゃったシート」を活用し、職員との話し合いの機会を設け反映させている。何でも言い合える職場の人間関係を大切にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じ役割を任せている。職員の良い面を引き出し、輝き出せる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部、外部研修を行うことで質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の同業施設を相互訪問し意見交換や情報交換を行い、知識・技術の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の面談時には、先方に出向き管理者・リーダー・家族・ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・Dr等を交え、しっかり話を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけ十分に納得して頂けるよう話をしている。入居時に家族から要望書を頂き職員で共有している。また、本人・家族から意向を伺いながらケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定ケアプランを作成し、その方のできる事、できない事を見極め次のサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れず、共に暮らす同志として敬いの心を持ち、家族の様な付き合いができるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の役割として本人と家族の橋渡しになるように努めている。また家族便りの中でご様子などを報告したり、個別に電話にて情報を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	訪問しやすい事業所の雰囲気作りを行うと共に、職員に来客時の接遇についても指導している。また地域の理髪店より定期的に理美容の訪問を依頼し地域に根付いた密着型の関わり作りをおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族の様な関係作り、他者を心配したり、労わったりできる人間関係が保てるように支援している。孤立しがちな利用者には職員が会話の橋渡しを行い交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子をご連絡頂けるように退居手続き時をお願いしている。家族から定期的に報告頂き、退居後の利用者への職員の訪問、面会は継続されています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	業務に就く前の利用者の顔をみて挨拶し、その時の利用者の状態の把握に努めている。スキンシップを多く取り入れ、手を握ったり肩をなでたりする事で心を開く、心の声を聞きかけ作りに役立っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にヒヤリング実施し情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時にお一人おひとりに挨拶しその日の顔色、声を観察しその日の状態を把握して過ごし方を考えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意向を伺い、モニタリングやユニット会議にて職員が意見交換し介護計画を作成している。サービス担当者会議には、往診医や歯科医の出席をお願いする時もある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。 『気づいちゃったシート』の活用やサービス内容の実施について、介護記録に「㊟～」と記載する事でケアの実施を示す工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録の他に特記事項、申し送りノートにて情報を共有している。 『気づいちゃったシート』の活用やサービス内容の実施について、介護記録に「㊟～」と記載する事でケアの実施を示す工夫を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア「よりみちクラブ」との繋がりを大切に行事にボランティアとしてお招きしている。また、傾聴ボランティアや養護学校の実習生受け入れ等、事業所、利用者、地域との協働に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて、本人、家族の要望を聞きながら対応。かかりつけ医を変えられない家族については、主治医と往診医の連絡を密に行い情報を共有できる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、事業所と看護師が情報共有できる往診録を作成している。事業所側の要望と看護側の対応処置を細かく記載し、やり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報や介護サマリーをやり取りしている。入院中は、病院のソーシャルワーカーやDrと情報交換や退院後の相談、支援方法について連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族と相談し特養申請を希望される方については手続きのお手伝いを行っている。事業所として、経口摂取出来なくなると入居の継続は難しくなる旨を家族に説明し納得して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて勉強会を行っている。実践力は、全ての職員にあるとは言えず、今後の課題となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を地域の方々をお招きし実施している。今後は、消防や地域との協力体制をもっと密にする事で構築を深めて行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとり、その方に合った言葉使いや声かけを行うように努めている。節度ある関係を心掛け、配慮ある言葉掛けを職員間で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がしやすい環境作りや雰囲気作りに努めている。10時のお茶はお好きなものを選択する事で自己決定の支援として設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間はお好きなことをして過ごして頂く。「したい時」「したい事」を声かけしながら本人の思いを傾聴・支援し、利用者のペースで生活できるよう手助けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えについては本人の希望を聞きながら職員と一緒にそろえるお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回は利用者の嗜好に合わせ召し上がりたい物を自由昼食として提供している。又利用者の得意料理を他利用者と共に作ったりその季節にあった食事の提供にも心を配っている。SPの嚙下テストを行いその方にあった食事形態で提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を測定している。Drと話し合い病状や状態に応じてその方に合った食事摂取、食事制限や食事量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて声かけ、介助を行っている。義歯は、夕食後洗浄剤にて清潔に使用できるよう支援している。一週間に一回は歯科衛生士により口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを知り定期的に声かけを行っている。病院から入居者様についてリハパンから布パンツへ移行できた事例がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、食事の献立の中に食物繊維が豊富な食材を使用したり家族と相談し個別に乳酸飲料を飲んで頂いたり、おやつに寒天を使ったものを提供。水分強化の声かけを行っている。又慢性の便秘がちの方についてはDrと相談し薬の処方をお願いしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調を優先的に考えながらローテーションで実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けている、30分～1時間程。その後の活動性が高まり活気よく過ごすことができ、夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量について理解してもらうために全職員が服薬、薬のセットに携わり周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の予定や行事をホワイトボードに記入して見て頂くことで楽しみが増える。ケアプランの中にも役割をサービス内容に入れることで、全職員が同じ支援ができるような工夫も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクの計画。本年度、お花見、等々力公園、アクアライン、外食等。ご家族様と協力、連絡をとりながら一時帰宅や外食などの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしていないが、外出の際、個々にお財布を持ちそのお金で買い物を自由にできる支援を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話の取り次ぎを行ったり遠方（海外）の親族や仲の良い友人、家族への手紙のやり取りの支援を行っている。はがきの準備や投函なども支援の一つと考え実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の手作りカレンダーの中に季節感も感じて頂くように工夫している。温湿度計に注意し、心地良い快適な空間作り心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者、同じ趣味のある方がご自分の思いのまま、自由な時間を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンをご自分の好きな色や物に取り替えられている方やTVやソファ・机等を置設しご自宅の一部のように使用されている。馴染みの家具やベッドを使用し持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとにトイレ、プレートをつけ混乱の無い様に生活している。居室についてはその方に合ったプレートの位置を考え工夫している。トイレ内に看板を設置し、排便の有無を職員に自発的に知らせて頂けるように支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム  
高津クヌギ園

作成日 平成26年3月26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者や家族が地域の方々と交流する機会が作られていない。	多くの方々に事業所の理解を得る。	年に数回、利用者や家族が地域の方々と交流を深め、楽しむイベントを開催する。	1年
2	35	消防署の指導を受けた夜間想定訓練が行えていない。	夜間想定防災訓練を行う。	年1回、消防署をお招きし本格的な訓練計画を立て実施する。	1年
3	35	非常食の備蓄ができていない。	3日分の非常食を確保する。	必要な食糧、備品のピックアップ、会社への稟議書作成、備蓄品の保管場所の確保。	1年
4	33	重度化や終末期に向けた方針がない。文書化されていない。	重度化の指針の作成。	会社としての指針がないため、打診していく。事業所としての入居時の指針を文書化していく。	1年
5	33	終末期のケアについての研修が行えていない。	終末期ケアについて理解を深める。	内部研修や外部研修に積極的に参加する。家族にも終末期について理解を深めてもらうために運営推進会議にフィードバックしていく。	1年

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。